

2017年3月期 第2四半期決算説明会

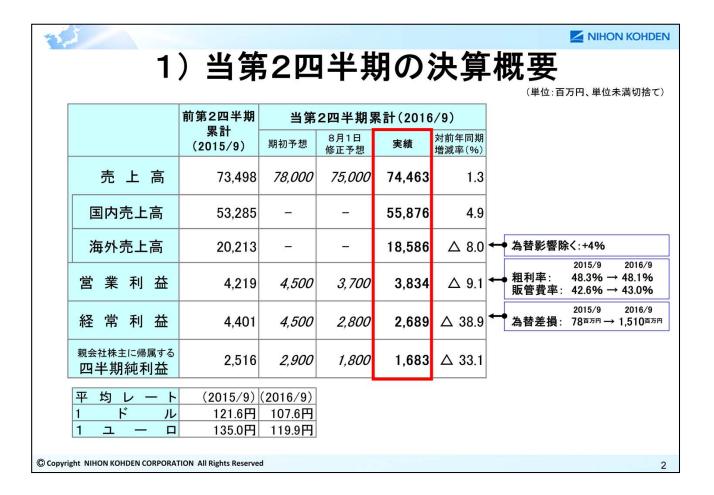
2016年11月9日

日本光電工業株式会社

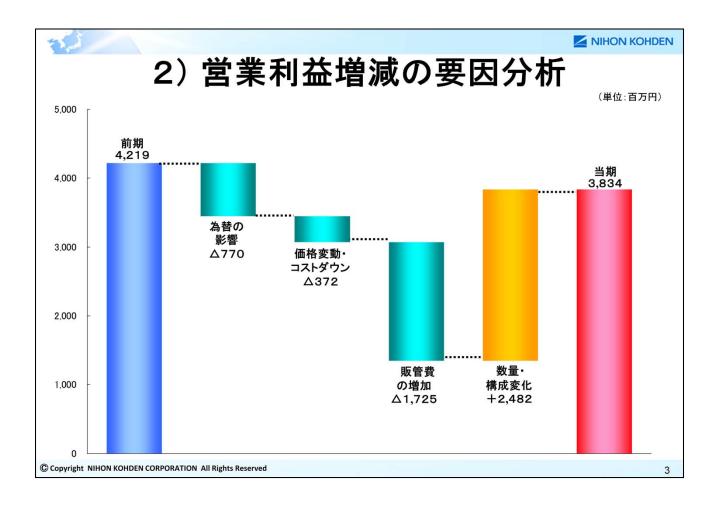
証券コード: 6849

http://www.nihonkohden.co.jp

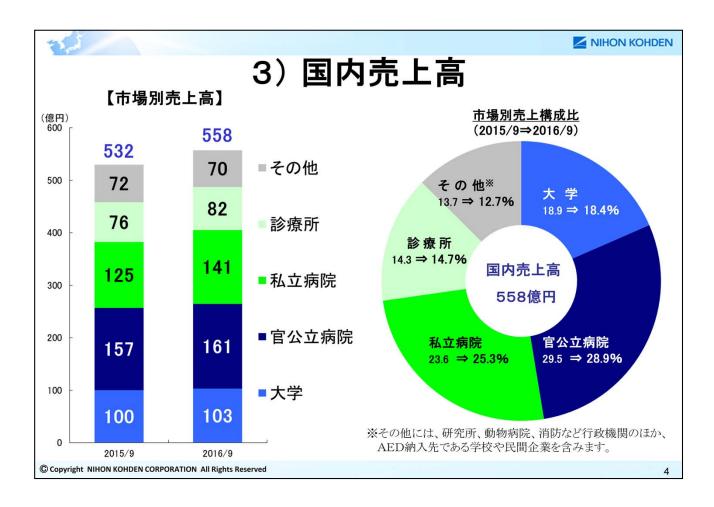




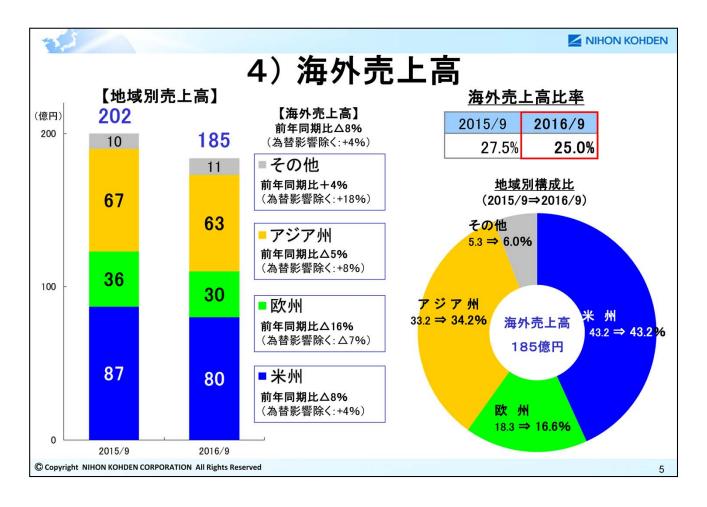
- ・ 売上高は、1.3%増の744億円となりました。
- 国内売上高は、病院・診療所市場が好調に推移し、4.9%増の558億円となりました。
- 海外売上高は、円高の影響から全ての州、全ての商品群で減収となり、8%減の 185億円となりました。現地通貨ベースでは、4%の増加となっています。
- 前回予想に対しては、全体で5億円下回りました。
- 営業利益は、9.1%減の38億円となりました。
- 経常利益は、為替差損の計上により38.9%減の26億円、純利益は33.1%減の16 億円となりました。



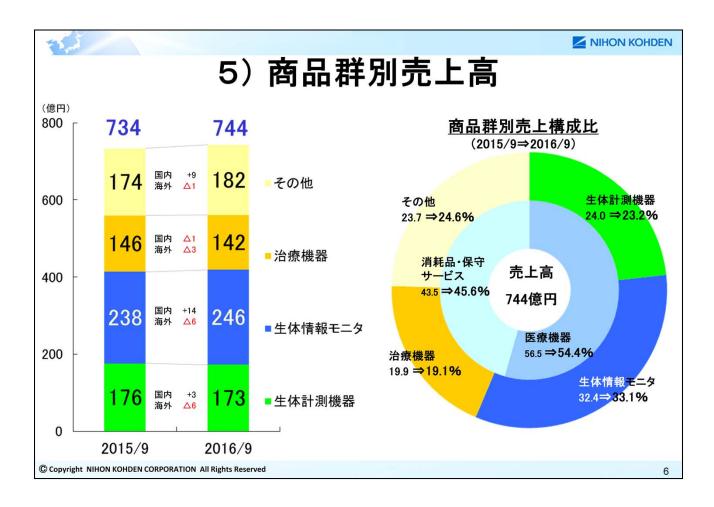
- 営業利益が、前期の42億円から38億円となった要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、ドル、ユーロに対し円高が進んだことから、7億円のマイナス要因となりました。
- 価格変動・コストダウンにつきましては、製品の自主改修費用の繰入などもあり、 3億円のマイナス要因となりました。
- 販管費につきましては、研究開発費、人件費を中心に増加し、17億円のマイナス要因となりました。
- 数量・構成の変化につきましては、主に数量増加により、24億円のプラス要因となりました。



- 国内売上高は、26億円増の558億円となりました。
- 2016年4月に営業組織を再編し、急性期病院、中小病院、診療所といった、市場別の取り組みを強化するとともに、消耗品・保守サービスの拡大に注力した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 特に、私立病院、診療所市場が好調に推移しました。また、大学、官公立病院市場も売上を伸ばすことができました。
- その他市場は、AEDの更新需要の鈍化により低調に推移しました。



- 海外売上高は、17億円減の185億円となりました。円高の影響から、全ての州で 減収となりました。
- 米州は7億円減の80億円、現地通貨ベースでは4%増加しています。米国は、生体情報モニタを中心に好調に推移しましたが、円ベースでは減収となりました。中南米は、販売組織再編に伴う商流変更の影響もあり、前期を下回りました。
- 欧州では、フランス、イギリスは好調でしたが、ドイツが低調だったため、6億円減の30億円となりました。現地通貨ベースでも7%減少しています。
- アジア州は、現地通貨ベースでは8%増加しましたが、円ベースでは4億円減の 63億円となりました。原油安の影響で産油国は低調でしたが、東南アジア、韓国が 好調に推移しました。
- その他地域では、エジプトにおける大口商談の獲得も寄与し、円ベース、現地通 貨ベースともに増加しました。
- 海外売上高比率は25%となりました。



- 商品群別の状況について、ご説明します。
- 国内は、生体情報モニタが好調に推移し、生体計測機器、その他商品群も前期を 上回りました。一方で、AEDが低調だったことから、治療機器は前期をわずかに 下回りました。
- 海外は、円高の影響から、全ての商品群で減収となりました。
- 医療機器と消耗品・保守サービスの割合では、国内外での消耗品事業の強化を受け、消耗品・保守サービスの割合が45.6%へ増加し、安定収益につながっています。



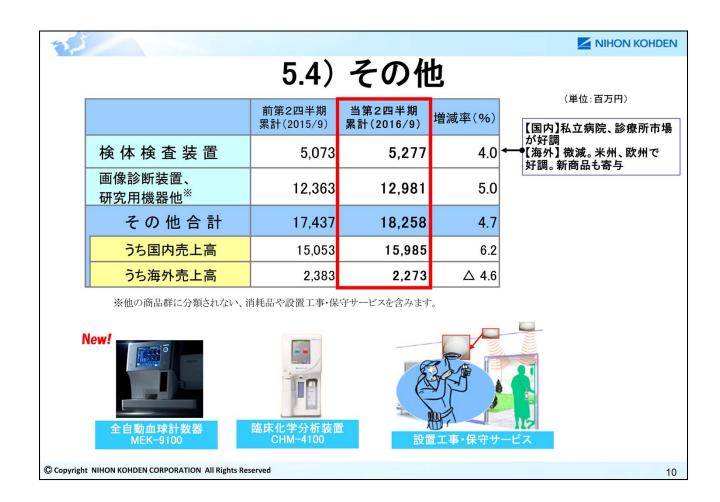
- 「生体計測機器」は、全体で1.8%減の173億円となりました。
- 国内では、脳神経系群、心電計群、診断情報システムは前期を下回りましたが、 心臓カテーテル検査装置群に含まれる電極カテーテルが好調に推移し、2.4%増 の135億円となりました。
- 海外では、脳神経系群、心電計群ともに前期を下回り、14.4%減の37億円となりました。



- 「生体情報モニタ」は、全体で3.6%増の246億円となりました。
- 国内では、官公立病院、私立病院を中心に、送信機、ベッドサイドモニタが好調に 推移し、9.6%増の160億円となりました。
- 海外では、米州は前期並みでしたが、欧州、アジア州が前期を下回ったことから、 6%減の85億円となりました。



- 「治療機器」は、全体で2.8%減の142億円となりました。
- 商品別では、医科向け除細動器は、国内外ともに前期を下回り、16.8%減の21 億円となりました。
- AEDは、販売台数が全体で41,200台、売上は6.7%減の64億円となりました。国内は、更新需要の鈍化により低調に推移しました。海外は、欧州、アジア州が好調に推移したものの、微増にとどまりました。
- ◆ 人工呼吸器は、国内の病院新設に伴う新規受注が寄与しました。
- 地域別では、国内は0.7%減の102億円、海外は7.9%減の39億円となりました。



- 「その他商品群」におきましては、全体で4.7%増の182億円となりました。
- 国内では、私立病院、診療所市場で、検体検査装置が好調に推移し、6.2%増の 159億円となりました。
- 海外は、検体検査装置が米州、欧州で好調に推移し、新商品も寄与しましたが、 円高の影響から4.6%減の22億円となりました。



4,615

37,856

95,628

133,485

918

△ 8,742

△ 2,042

△ 10,785

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

流

古

資

流

固

負

純

動

定

産

動

定

債

負

合

資

負債•純資産合計

債

計

産

3,697

46,599

97,671

144,270

11

● 総資産は107億円減少し、1,334億円となっています。



7) 設備投資と研究開発費

	前第2四半期	当第2四半期	2016/3	2017/3予想		(単位:百万円)		
		累計(2016/9)	前期実績	期初	11月4日修正			
設備投資額	2,873	4,758	6,678	10,000	9,000			
減価償却費	1,596	1,548	3,459	4,000	3,400			
研究開発費	2,616	2,958	5,910	7,300	6,500			

●設備投資の上期実績

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、所沢 総合技術開発センタの建設、 朝霞事業所の建設

2017/3期計画における主な案件

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、富岡第二工場改修工事、 本社(西落合事業所)改修工事

「完成·移転:2016年10月 2016/3:34^{億円} 所沢 総合技術開発センタの建設

設備投資額:72億円 く

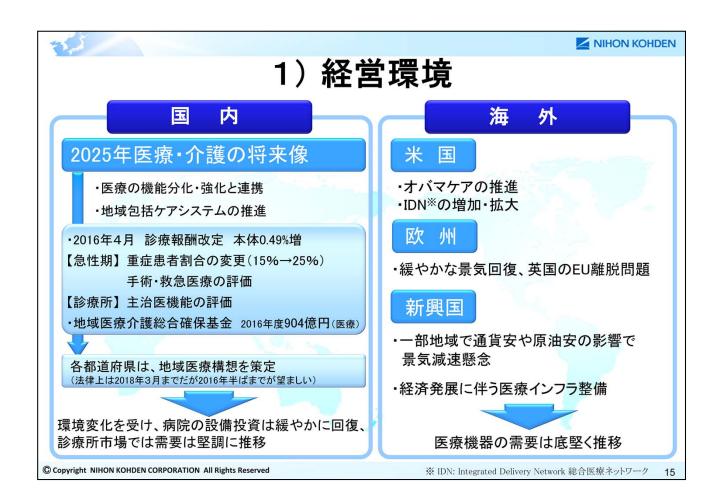
- 設備投資は、前期比19億円増の47億円となりました。この中には、所沢の総合技 術開発センタといった大型投資が含まれています。
- 減価償却費は前期並みの15億円、研究開発費は前期比3億円増の29億円となり ました。
- 通期につきましては、設備投資は90億円、減価償却費は34億円を見込んでいま す。
- 研究開発費は、上期の進捗をふまえ、65億円に見直します。新たに取り組んでい る人工呼吸器などの開発により、前期からは増加する見通しです。



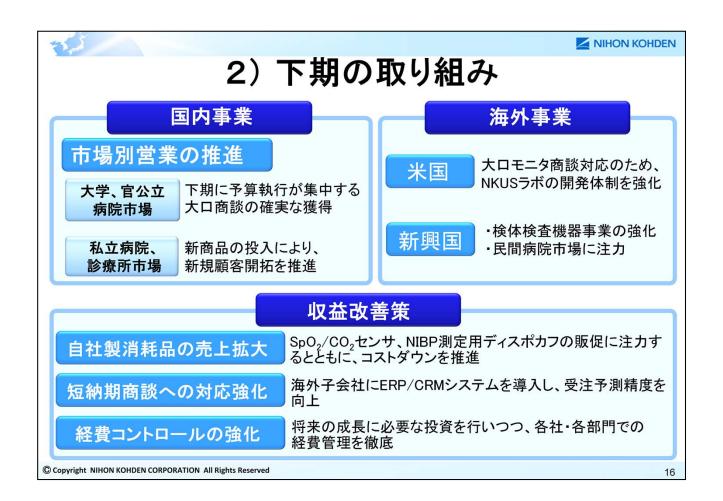
- 総合技術開発センタへの技術開発部門の移転は、10月に完了しました。
- 「夢と革新を育む創造の場」として、長期ビジョンで掲げる「世界初の革新的技術の確立」に取り組みます。
- 12月を目途に、東中野事業所と西落合事業所を統合し、本社管理部門の移転を 予定しています。

13

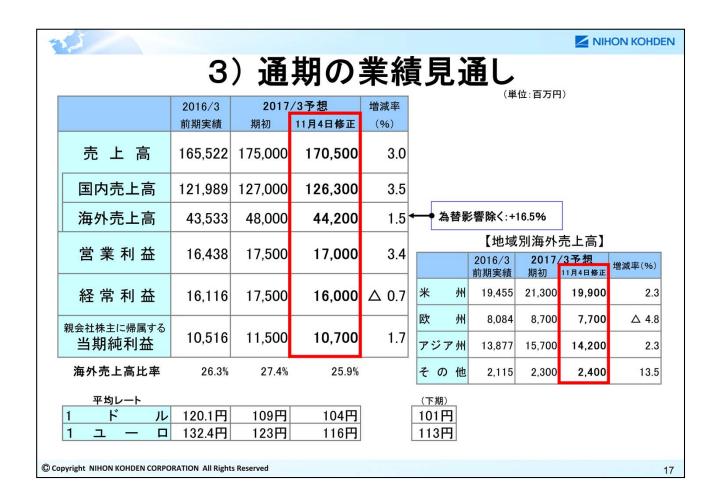




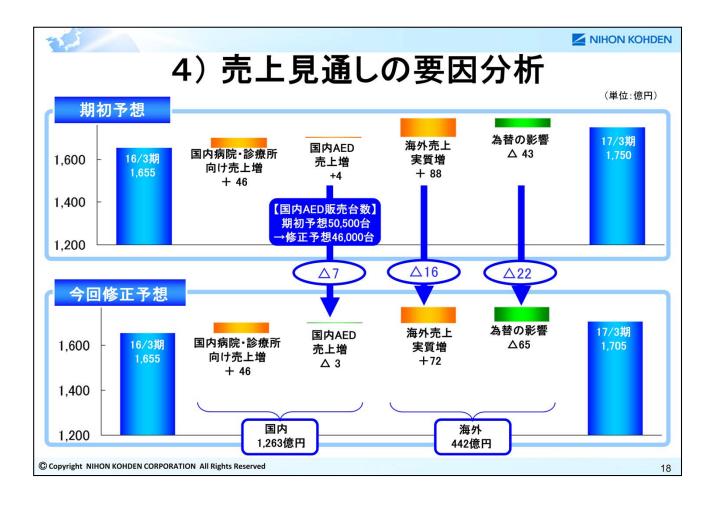
- 国内では、2025年の医療と介護の将来像に向けて、医療制度改革が進められています。
- 4月の診療報酬改定では、急性期病院は、重症患者を多く受け入れる体制の構築が求められており、また、診療所の主治医機能が評価された内容となったことから、病院市場の設備投資は緩やかに回復するとともに、診療所市場では需要が堅調に推移すると考えています。
- 海外では、米国でオバマケアの推進に加え、IDNが増加・拡大しています。
- 欧州では、緩やかに景気が回復していますが、英国のEU離脱問題の影響が懸 念されます。
- 一部の新興国では、通貨安や原油安の影響による景気減速が懸念されますが、 欧米、新興国ともに、総じて、医療機器の需要は底堅く推移すると見ています。



- 下期はご覧の取り組みを推進します。
- 国内では、市場別の営業展開を強化します。下期に予算執行が集中する大学、 官公立病院市場では、大口商談の確実な獲得を目指します。私立病院、診療所 市場では、新商品の投入により、新規顧客の開拓を推進します。
- 海外では、米国での大口モニタ商談に対応するため、NKUSラボの開発体制を強化します。新興国では、特に、検体検査機器事業の強化に加え、需要の底堅い民間病院市場に注力いたします。
- 収益改善に向けては、センサや血圧カフなど、自社の消耗品の販促に注力するとともに、コストダウンを推進します。海外における納期の短い商談に対応するため、ERP/CRMシステムを導入し、受注予測精度の向上を図ります。引き続き、将来の成長に必要な投資を行いつつ、全社での経費管理を徹底します。

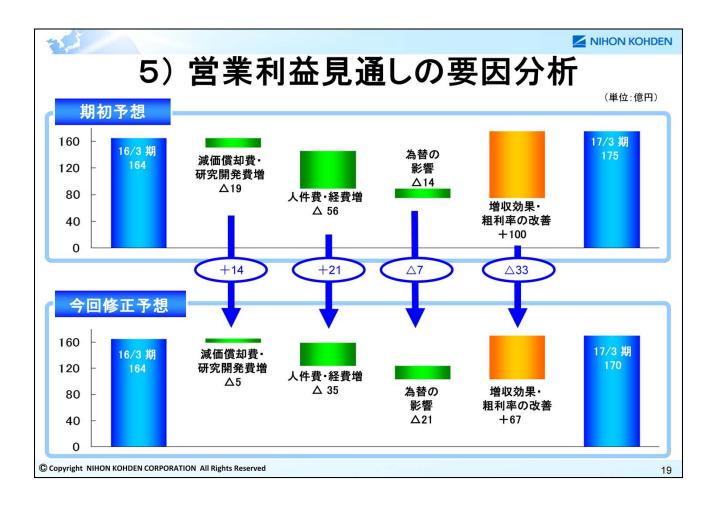


- 上期の実績および最近の業績動向をふまえ、通期の業績見通しを見直しました。
- 国内は、AEDが低調であること、海外は、欧州、中国が計画からかい離していることから、為替の影響もふまえ、売上・利益ともに下方修正いたしました。
- 売上高は3.0%増の1,705億円、国内売上高は3.5%増の1,263億円の見通しです。海外売上高は1.5%増の442億円、現地通貨ベースでは16.5%増の見通しです。海外の地域別はご覧のとおりです。
- 利益面では、販管費の伸びの抑制など収益改善に努めるものの、売上が期初の 予想を下回る見通しのため、営業利益は3.4%増の170億円、経常利益は為替差 損の計上により0.7%減の160億円、純利益は1.7%増の107億円、を見込んでいます。
- 為替の前提は、下期はドルが101円、ユーロが113円、通期はドルが104円、ユーロが116円です。



- 国内の病院・診療所向けは、46億円の増収となる見通しです。
- 国内のAEDは、販売台数を50,500台から46,000台に見直し、3億円の減収になると見込んでいます。
- 海外売上高は、欧州、中国における下期の回復が、計画とのかい離を補うまでに は至らない見通しであり、72億円の実質増に見直しました。
- 為替につきましては、対ドル、ユーロのレートを見直し、65億円のマイナス影響と見ています。

18



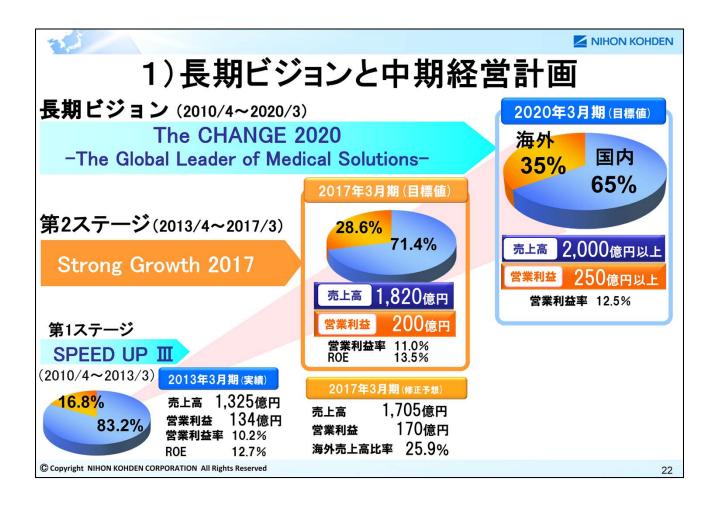
- 減価償却費・研究開発費の増加は5億円、人件費・経費の増加は35億円のマイナス影響と見ています。
- 為替の影響につきましては、期初の想定よりも円高に推移していることから、21億円のマイナス影響と見ています。
- 増収効果とあら利率改善による営業利益の増加は、売上が期初の想定を下回ることから、67億円の見通しです。

19

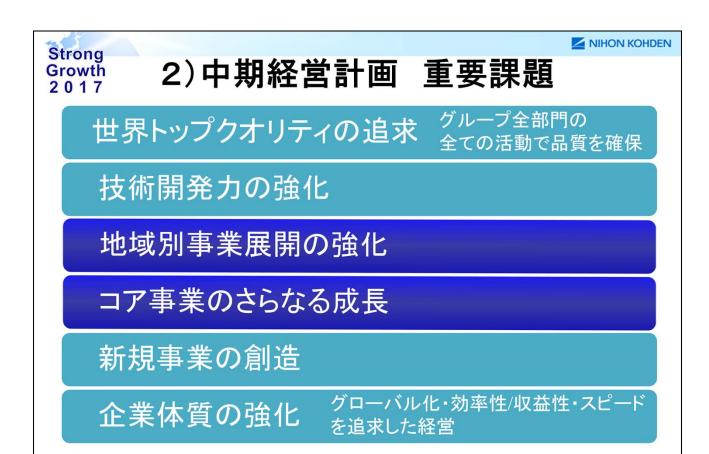
				✓ NIHON KOH
[参考]商	品群別	J売上i	高見通	il
				(単位:百万円)
	2016/3	2017/3予想		増減率(%)
	前期実績	期初	11月4日修正	78 1100
生体計測機器	39,218	40,800	39,600	1.0
生体情報モニタ	54,823	59,250	57,900	5.6
治 療 機 器	30,611	32,600	30,700	0.3
そ の 他	40,868	42,350	42,300	3.5
売 上 高 合 計	165,522	175,000	170,500	3.0
(ご参考)				
消耗品・保守サービス	67,684	72,400	71,900	6.2
nyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved				

- 商品群別の売上高見通しについては、上期業績をふまえ修正いたしました。
- 生体情報モニタを中心にシェア拡大を図るとともに、安定収益につながる消耗品・ 保守サービス事業の取り組みを、国内外で強化します。





- 長期ビジョンでは、2020年3月期に、売上高2,000億円以上、営業利益250億円以上、海外売上高比率35%以上を目指しています。
- 当期は4ヵ年中期経営計画の最終年度となります。
- 国内の持続的成長と海外での飛躍的成長を実現し、長期ビジョンを達成するため の成長基盤の構築に取り組んでまいります。



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2

● 本日は、中期経営計画達成に向けて、現在取り組んでいる6つの重要課題のうち、「地域別事業展開の強化」と「コア事業のさらなる成長」についてご説明します。



- 日本では、2025年の医療と介護の将来像に向けた医療制度改革により、市場環境が大きく変化しています。
- 市場別の取り組みを強化するため、2016年4月に営業組織体制を再編しましたが、再編の効果は、徐々に出てきています。
- 病院営業部では、急性期病院の高度化を支援するため、IT化に対応したソリューションを提供し、専門営業体制を強化しています。
- GP営業部では、市場ニーズに合った商品を開発し、新規顧客の開拓を進めます。さらに、高齢者向け健康みまもりサービスなど新規事業も推進します。



- ◆ 米国では、3事業の連携、クロスセリングを強化しています。
- 生体情報モニタでは、増加・拡大しているIDNへの対策を強化し、大手IDNとの契約を獲得しました。顧客満足度評価も10年連続でトップを継続しています。当社モニタの品質や性能、トレーニングなどのアフターサービスが高く評価されています。引き続き、新商品の投入と消耗品の拡大により、シェア10%以上を目指します。
- 脳神経系群では、トップ50病院の攻略に注力しており、新たにコロラド大学病院に 採用いただきました。ユーザニーズに合った製品を開発することで、シェア拡大を 図っています。
- 救命救急分野では、デフィブテックが新たに工場を設立しました。外部委託に加え、自社生産を開始し、FDAに対応した高い品質管理体制を構築しています。



- 新興国では、医療のインフラ整備に伴う需要を着実に取り込むとともに、医療水準 の向上に貢献してまいります。
- 特に、血球計数器やCRP免疫反応測定装置など、検体検査機器事業を強化します。また、需要が底堅い民間病院市場への営業体制を強化いたします。
- 政府入札案件の獲得では、エジプトでの大口商談を受注し、一部、第2四半期から売上に寄与しています。
- 今後も、ハイエンド市場には日本製品、ミドル・ローエンド市場には上海製品を展開し、さらに、新興国市場における販売・サービス体制の現地化を進め、事業基盤の拡充に取り組みます。



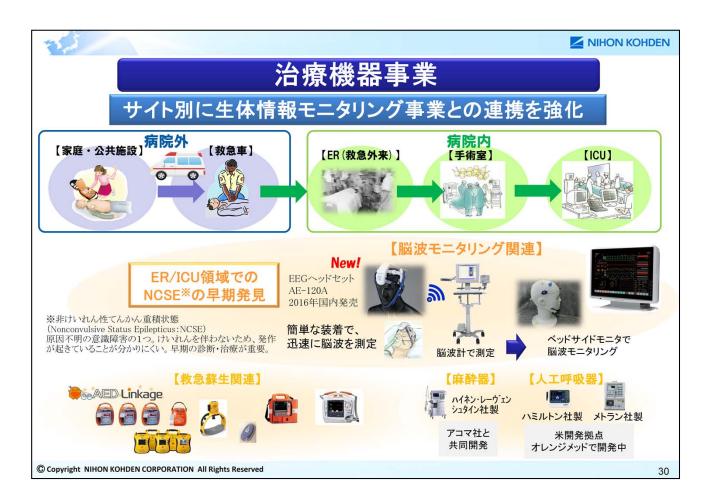
- 当社は、センサ技術を中心に、5つの事業領域に展開しています。
- 新商品はご覧のとおりです。



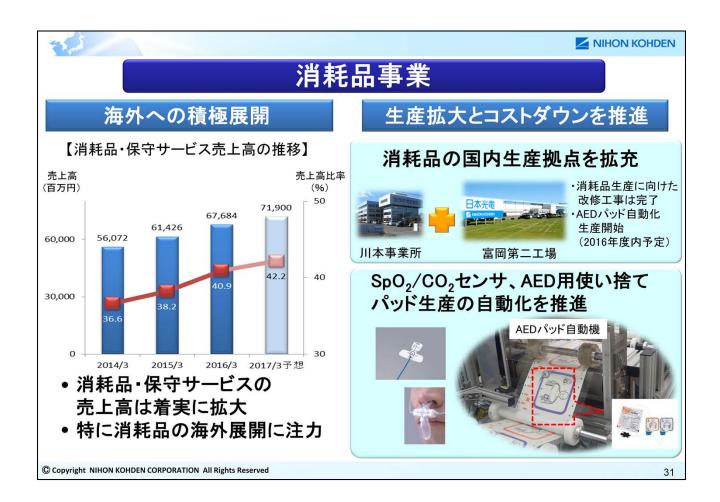
- 当社は創業時からヒューマン・マシン・インターフェースをコア技術として独自のセンサ、パラメータ技術の開発に注力してきました。
- esCCOは、非侵襲で連続的に心拍出量を推定できる当社独自のパラメータです。現在、日本での治験を終了し、承認申請の準備を開始しています。8月に開催された世界麻酔学会では、世界各国の医師から高い評価をいただきました。
- ◆ その他には、SpO₂や速くてやさしい血圧測定を可能とするiNIBP、CO₂の測定技術を開発しています。
- これらの技術を搭載することにより、製品競争力を高め、医療技術の向上に貢献してまいります。



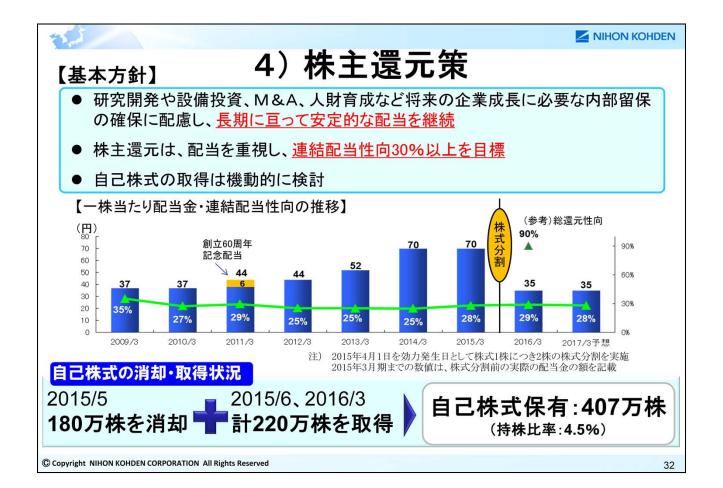
- 成長を牽引する生体情報モニタでは、ご覧の商品ラインアップにより、次世代のプラットフォームが完成しました。
- 新商品では、医用テレメータやiNIBPを搭載したバイタルサインテレメータを発売しました。
- 最上位機種のベッドサイドモニタには、導出18誘導心電図を搭載し、付加価値向上につなげていきます。
- 生体情報モニタは、病院の高度化に果たす役割がますます重要になります。
- 当社独自のソリューションを提供しグローバルな事業展開を加速いたします。



- 治療機器では、院外から院内まで、一連のソリューションを提供してまいります。
- ERやICUでは、脳波を測定・モニタリングする需要が高まっており、救急現場で簡単に装着し、迅速に脳波を測定できるEEGヘッドセットを発売しました。けいれんを伴わないてんかん患者さんの脳波を迅速に測定することで、早期の診断・治療に貢献いたします。また、ベッドサイドモニタにおける脳波モニタリングのニーズも拡大しています。
- ◆ 人工呼吸器、麻酔器については、現在自社製品の開発を進めています。



- ご覧のとおり、消耗品・保守サービスは、着実に売上が拡大しています。
- 今後は、特に、海外の消耗品事業の拡大に注力いたします。
- 生産拡大とコストダウンを推進するため、国内の生産拠点を拡充しました。年度内に、富岡第二工場において消耗品の生産を開始する予定です。センサやAED用使い捨てパッドの自動化生産に取り組み、コストダウンを推進しています。



- 利益の配分につきましては、研究開発や設備投資、M&A、人財育成など、将来の成長に必要な内部留保の確保に配慮しながら長期にわたって、安定的な配当を継続することを基本方針としています。
- 株主還元は、配当を重視しており、配当性向は30%以上を目標としています。
- 当期の年間配当金は35円、配当性向は28%の予定です。
- 自己株式の取得につきましても、今後も機動的に検討いたします。



この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる 場合がありますことをご承知おきください。

> 【担当部署】経営戦略部 【連 絡 先】TE.03-5996-8003

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved